

# 水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAひだか東

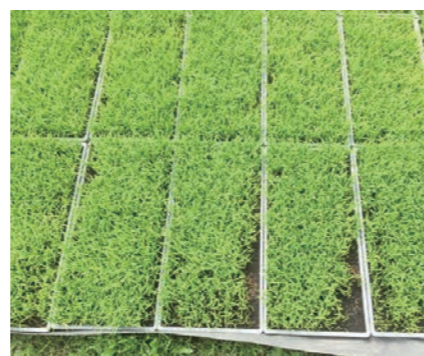
小田 誠一



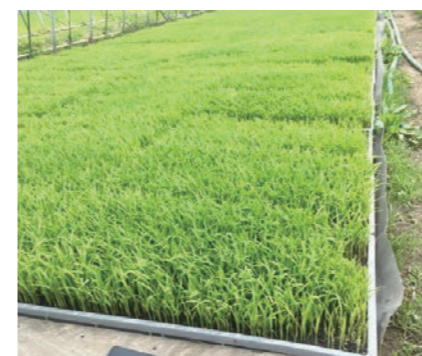
慣行品 5.12



慣行品 5.12



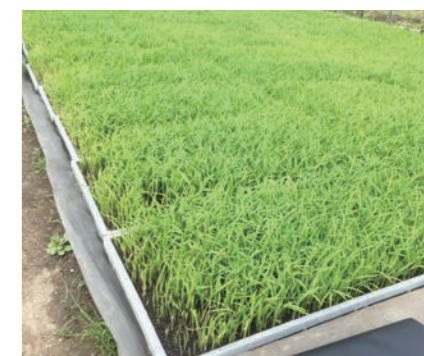
試験品① 5.12



試験品① 5.12



試験品② 5.12



試験品② 5.12

## 試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

## 試験作物及び品種

水稲(ななつぼし、きたくりん)

## 試験資材及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット 13mm厚

## 慣行資材

クミアイこめパワーマット(通常品) 16mm厚

## 栽培方法

|                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| <b>播種日</b>                  | <b>収穫日</b>                  |
| 慣行区: 4月20日<br>試験区: 4月20~21日 | 慣行区: 5月20日<br>試験区: 5月20~27日 |

## 試験結果

### (1) 作業性について(慣行品との比較)

育苗箱への設置作業や播種作業はどちらも変わらなかった。

田植えについては、どちらも大きな差はなかったが、試験品の方がやや浮きにくかった。

### (2) 作物の生育状況または、収穫への影響

播種後の覆土について、慣行品は育苗箱すり切り程度にしているのに対し、今回の試験品は①すり切りよりやや下(覆土量が慣行品同様)、②すり切り(覆土量が慣行品より多目)で育苗した。

①においては、水不足によると思われる枯れが一部発生した。②の方が生育状況は良かった。

### (3) 栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 薄くなる分使用枚数が同じでも、保管スペースが小さく済む。

## モニター感想

播種作業から田植えまで、作業に大きな問題はなかった。

播種後の覆土量は、①慣行品と同様②慣行品より少し多めの2パターンで試してみたが、①の方がややヤケ(枯れ)が多かった。おそらく水不足と考えられる。全体を通して、②のパターンの方が生育状況が良い印象だった。

問題なかったため、次年度は全量薄型にする予定。

### JA担当者の感想(様似支所 生産資材課 川村係長)

作業性は従来と変わらず、問題なかった。薄型の方が覆土の量の調節が難しいようだが、注意すれば生育に問題ないため、薄型への切り替えは可能だと思われる。コスト面、保管スペース削減でメリットが出るのは良い。

## 今後の使用について

継続して使用したい。  
問題なかったため、次年度は薄型に切り替える。

- 1 高温対策
- 2 害虫忌避効果
- 3 調光フィルム
- 4 育苗上蓋
- 5 クリネート
- 6 マルチ
- 7 不織布
- 8 育苗資材
- 9 略農資材
- 10 その他